マルクス兄弟オペラは踊る（1935）

A NIGHT AT THE OPERA

メディア 映画
ジャンル コメディ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 91分
初公開日 1936/04
公開情報 劇場公開

【解説】

グルーチョ・マルクス自身が自分たちの最高作に挙げる、彼らのＭＧＭでの第一作。「我輩はカモである」の記録的不入りでパラマウントを追われ、満を持しての再スタートは興行的にも大成功。その“自信”がそう言わせたのだろう。ＭＧＭという会社のムードがよく出た音楽色豊かな作品だ。

いつもの詐欺師的人物のグルーチョが大富豪未亡人（デュモント）に待ち呆けを喰わせての言い訳がまずおかしい。彼女は彼に社交界への紹介を依頼、彼はＮＹオペラの支配人を会わせる。そして、支配人は彼女に援助を乞い、本場オペラ座の大歌手ラスパリ招聘に皆で赴くことになる。そこでグルーチョは、歌姫ローザの恋人の合唱団員リカルドこそ主役に相応しい－－と言う、マネージャー役のチコと、ラスパリにいじめ抜かれる付き人のハーポに出会い、彼らを密かに乗船させ帰国の途に着く。この狭いグルーチョの船室が乗務員たちで溢れる不条理ギャグは伝説的傑作で、部屋を訪れた夫人が扉を開けるとまさに雪崩を打って彼らは飛び出すのだ。そして、ＮＹへついてからのホテル。やはり無断で員数外の人間を泊めていると、支配人に疑われたグルーチョたちは、スイートの居間に自分以外の三人のベッドを運び、また寝室に戻るという汗だくのごまかしを繰り返し、支配人を煙に巻く。さて、公演の出し物はヴェルディの“イル・トロヴァトーレ”。その序曲の楽譜に『私を野球に連れてって』の譜を滑り込ませ、グルーチョは指揮棒でチャンバラ。舞台裏に回ったハーポは背景を変えるロープを次々に引き、歌劇を笑劇にしてしまう。これを追う支配人たちと大捕物劇を繰り広げ、ターザンよろしくロープで舞台に降り、いよいよ危なくなったかと思うと垂直に背景を駆け上がる様は圧巻。結局、ヒステリーを起こしたラスパリの代わりにリカルドが舞台を務め、大絶賛を浴びＥＮＤとなる。このアナーキーなクライマックスは「ファール・プレイ」の“ミカド”の場面に上手く引用されていた。

【クレジット】

監督	サム・ウッド	Sam Wood
製作	アーヴィング・Ｇ・サルバーグ	Irving G. Thalberg
原作	ジェームズ・ケヴィン・マッギネス	James Kevin McGuinness
脚本	ジョージ・Ｓ・カウフマン	George S. Kaufman
撮影	メリット・Ｂ・ガースタッド	Merritt B. Gerstad
出演	グルーチョ・マルクス	Groucho Marx
	ハーポ・マルクス	Harpo Marx
	チコ・マルクス	Chico Marx
	キティ・カーライル	
	アラン・ジョーンズ	Allan Jones
	ウォルター・ウォルフ・キング	Walter Woolf King
	マーガレット・デュモント	Margaret Dumont
	シーグフリード・ルーマン	Siegfried Rumann

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.